

東北視察（平成 24 年 9 月 2～4 日）報告書

作成者：藤生早紀

今回東北視察は、跡見エコキャンパス研究会から 4 名(池田・石橋・川崎・藤生)が参加。淑徳大の 8 名と同行した。この視察の目的は、埼玉の学生と宮城の学生の共通認識を持とうというものだった。



一日目に名取市の閑上地区にバスで向かった。そこは海が間近で港があり、人家が数多く建ち並んでいた場所だ。しかし言われるまで分からない程の人家が建ち並んでいたところには、家の基礎部分のコンクリートとその周りが雑草で覆われている風景だった。歩道はガタガタ…津波で曲げられたガードレール、寂しげに…でも力強くヒマワリが歩道の端にポツリポツリと咲いていた。いわゆる瓦礫は撤去されていて、後は小さな瓦礫(小さなガラス片や瓦、鉄くず等)が残っている

と説明を受けた。建物として残っているものは閑上中学校やお寺、鉄筋の建物の外観だけであった。

そこにある小高い丘には慰霊碑が建ててあり多くの花が手向けられていた。丘は 5～6m 程の高さであったのだがこの高さを津波 7～8m で上回っていたようだ。近くにある防災林として植えてあった松のほとんどがなぎ倒されていた。しかし立って残っているものも潮水よってか枯れているものが見受けられた。瓦礫は海近くに瓦礫処理施設が建っており、処理が進んでいた。



二日目は、午前に基づ調講演として①「エネルギー・環境に関する選択肢」(今騒がれている原子力発電を減らしていくにはどのようなことが必要か)原子力委員会委員の秋庭悦子先生 ②「大震災被災地における放射線汚染とその除染対策」(宮城県内の瓦礫処理状況の把握)東北大学大学院工学研究科客員教授の須藤隆一先生 ③「宮城県南部住民の個人被ばく線量調査とリスク・コミュニケーション」(子どもを中心に個人被ばく線量調査、住居の空間被ばくの調査)東北大学大学院薬学研究科 ラジオアイソトープ研究教育センター吉田浩子先生の講演を聞くことができた。

午後は 5～6 人、4 グループに分かれ宮城の学生(主に東北大学の皆さん)とディスカッションし発表した。そこで私は当時閑上地区に祖父母と一緒に住んでいたという社会人の方のお話を聞いた。地震が来てからすぐに車で逃げ助かった。そこから津波がきたというのは少し時間が経過してからだから、地震が収まり安心して家に大事なものを取りに戻ってしまった人が津波にのまれた可能性があるとのことのお話だった。この方は判断が早く車で逃げられましたが、津波は電動バイクと同じくらいの速度の為、人の足では逃げられなかっただろう。閑上地区は居住不可エリアになっている為に、周辺地域の方々は最初 2 年の契約であった仮設住宅が 4 年まで伸びたというが、安心して普通の住宅に 4 年後住んでいる保証はどこにもない。他にも、新潟経由で東京に避難してきた学生は、新宿などの大都市が節電でとても暗いのには驚いたようだった。



最終日は瓦礫処理施設の亘理名取ブロック(岩沼処理区)の視察をした。

宮城県は気仙沼ブロック、石巻ブロック、宮城東部ブロック、亘理名取ブロックと4つに分かれ処理をしている。災害廃棄物、所謂瓦礫の処理の状況を宮城県だけで見ると仮置場への搬入率 86%であとの14%は海中から引き揚げられた瓦礫類、残っている家屋等である。地区で見るとやはり石巻ブロックが突出して瓦礫の量が多いのだが宮城県内での処理は可能であるとみている。しかし焼却した際に出た灰については他県の協力が必要である。

岩沼処理区に入るとすぐ木屑がたくさん仕分けられていた。流木も多いようだが木造家屋も数多くあったようで木屑が多く見受けられた。細かい物に関しては手選別(写真参照:手で選別し下に落ちる仕組み)や風力選別機、磁力選別などを行っている。



“千年希望の丘”というものを名取市では作ろうとしており、6～7m の高台にして津波に屈しない地区にするという計画だ。しかし高台にするための材料が十分でないことなど問題はあるようだ。

亘理名取ブロックの仮設焼却炉は全部で 3 機あり、一日 50t の焼却可能な炉が 2 機、一日 95t 焼却可能な炉が 1 機がある。

従業員は全 190 人、基本的には東北六県からきている人が働いている。選別作業は 8:00～17:00、焼却炉は交代制で 24 時間稼働しており従業員の交代制。その中では女性社員の数は少なく手選別のところに 10 名程度。これから増員予定である。

まず、瓦礫が運び込まれたら土砂を落とす。これは土砂とセシウムはくっつきやすいからである。粉碎したものが山積みになっているが有害なものではないものは雨ざらしにしているが、セシウム反応が出れば染み出ることのないテントの中で保管している。電気の大切さを考え、事務所や更衣室、休憩所となっている建物には太陽光パネルを設置し、すべて賄っている。

すべての瓦礫処理は平成 26 年 3 月迄に処理完了を目指している。

今回このような東北視察に参加できた事、改めて考え直せたことは本当によかった。参加するまでは被災地の状況把握は皆無の状態から入ったものの、実際現地に行くと体感するといかに自然の脅威が凄かったか思い知らされた。そして基調講演で聞いた「2030年に向けて原子力発電をゼロにするか・15%にするか・20～25%にするか」という世間でも話題で、聞く前の私だったらゼロが良いと答えていたと思う。だが実際日本の発電は26%原子力に頼っている、そんな中から再生可能エネルギーを10%からドンと35%に増やせるかといったら無謀に近い。確かに今回の原発のせいで避難強いられている大勢の人がいるのだが、いきなり原発をなくすのではなく、徐々に減らして大きい目で見なければ解決しない問題だとリスク・コミュニケーションも合わせて学んだ。今回の原発問題は、何でも安全と言っていたのに関わらずこんなことになっているのだから、反原発が現れるのも無理はない。しかし電力の消費者となる全国民は原発についてもよく知らなければならないことだと痛感した。